東京電力福島第一原発事故に伴う原子力災害。

当たり前のように過ごしていた日常。当館の展示は、それが災害によって一変し奪い去られていくことを語りかけます。

―― 日常を見つめなおす ――

東日本大震災・原子力災害伝承館へぜひお越しください。

研修プログラム（オプション）

20名以上の団体向け。要事前予約、入館料と別に研修料金が必要です。

フィールドワーク　所要時間：60分

内容：双葉町や浪江町の被災地をバスで巡ります。複合災害や復興の状況を理解できます。

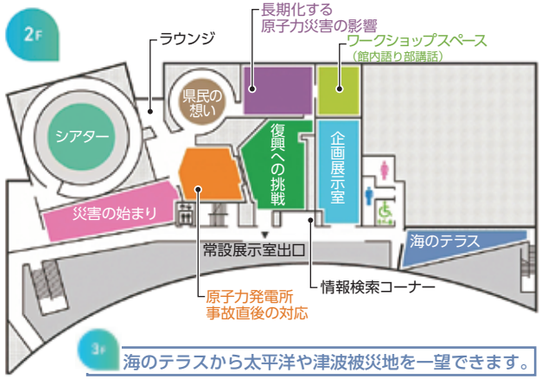


研修語り部講話　所要時間：40分

内容：語り部が自身の体験に加え、震災当時や原子力災害、復興の概要について語ります。

場所：１階研修室等（別途利用料が必要）

専門講座　所要時間：90分



東日本大震災・原子力災害伝承館マップ





【常磐双葉IC】から約10分【双葉駅】からシャトルバスで約6分

仙台から	仙台空港	常磐自動車道経由一般道　約80分	常磐双葉IC	一般道約6.4km
	仙台駅	常磐線特急ひたち　約80分	双葉駅	一般道約2km
東京から	東京都内	常磐自動車道経由一般道　約240分	常磐双葉IC	一般道約6.4km
	東京駅	常磐線特急ひたち　約190分	双葉駅	一般道約2km

伝承館

開館時間　9:00～17:00（最終入館16:30）

休館日　火曜日（祝日の場合は翌平日）・年末年始（12/29～1/3）

団体予約受付ＨＰ

入館料　大人600円　小中高300円
大人団体（20名以上）480円　小中高団体（20名以上）240円

研修室　最大90名収容（要事前予約、有料）

駐車場　大型バス10台、普通車110台　無料

※入館料、研修室利用料金については、各種減免制度あり

お問い合わせ先
公益財団法人 福島イノベーション・コースト構想推進機構
東日本大震災・原子力災害伝承館

伝承館HP

電話0240-23-4402
メール archive@fipo.or.jp
〒979-1401
福島県双葉郡双葉町大字中野字高田39
HP https://www.fipo.or.jp/lore/

掲載内容は2026年8月1日現在のものです。

［日本語］

福島県 Fukushima
東日本大震災・原子力災害伝承館

The Great East Japan Earthquake and Nuclear Disaster Memorial Museum

あの日からの経験
みらいへの教訓



津波で変形した消防車



原発事故前に双葉町に掲げられていた原子力広報の文字パネル（レプリカ）



伝承館外観

2011年３月11日に発生した東日本大震災と

未曽有の複合災害を経験し、
復興への途を歩んできた福島の
記録と記憶を防災・減災の教訓として
未来へつないでゆく。

館内語り部講話（かたりべ）　所要時間：40分

個人の来館者向け。毎日４回実施しています。

内容：地域住民が語り部となり、被災体験や想い、災害への備えなどを語ります。語り部の年齢や被災した場所などにより、語る内容はさまざまです。

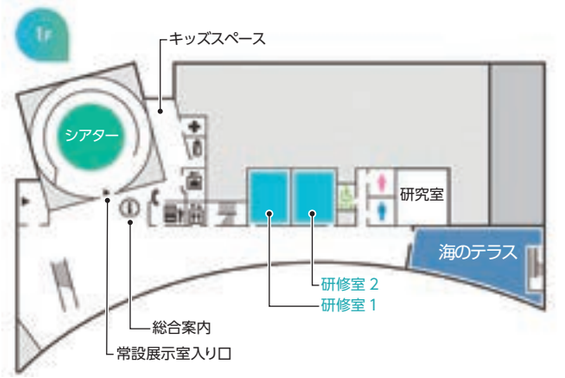
時間：10：00～、11：15～、13：15～、14：30～

場所：２階ワークショップスペース

定員：27名（先着順、予約不可）

料金：入館料だけで聴講いただけます





原子力災害を中心とした展示や語り部講話を通じて、震災の記録と記憶を教訓として防災・減災に役立てる。

見学の所要時間 ▶▶ 60分～
館内語り部講話 ▶▶ 40分

東日本大震災・原子力災害伝承館
The Great East Japan Earthquake and Nuclear Disaster Memorial Museum



プロローグ

地震・津波・原子力発電所事故発生当時の映像とアニメーションを効果的に組み合わせた映像を大型スクリーンに映します。基本理念をもとにした「災害の自分事化」、「福島の経験と教訓の未来への継承」というメッセージを来館者に伝え、震災のこと、事故のこと、復興のこと、これからの未来のことについて考える入り口としての役割を担います。ナレーターは福島県出身の俳優、故・西田敏行さんです。



1. 災害の始まり

平穏な暮らしを一変させた地震と津波、それに続く原子力発電所事故。複合災害の発生を受け、人々はどのように行動したのか。震災前、震災当時、震災直後の状況を時系列でたどり、さまざまな資料・証言・事故調査の記録から、複合災害の始まりを克明に描いていきます。



東日本大震災・原子力災害関連年表



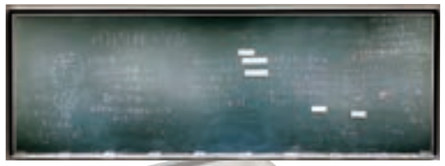
地震と津波の記録（映像）



津波で流されたランドセル、鍵盤ハーモニカ

平穏な日常が複合災害によってどのように変わってしまったのか。津波で大切な家族を失った方、原発事故でふるさとや、なりわいを喪失した方などの想いを、証言映像と実物資料を組み合わせて伝えます。

3. 県民の想い



川内村に避難した富岡町民が黒板に残したお礼のメッセージ

展示室にはアテンダントスタッフ（解説員）が常駐しています。

2. 原子力発電所事故直後の対応

原子力発電所事故直後、情報が錯綜（さくそう）し、避難中に命を落とす住民もいるなど、過酷な状況に陥りました。実物資料や大型モニターの映像を通じ、当時の緊迫した様子を追体験します。

警戒区域から避難せずに残っていた人が書いた記録

1週間後の事故の実像（映像）



（防護服）

4. 長期化する原子力災害の影響

除染（放射性物質の除去）や中間貯蔵施設、風評の払拭、長期避難への対応、健康に関する取り組みなど、原子力災害による長期的で困難な課題に、福島県の人々がどのように対応してきたのか、タッチパネル解説や資料を通して伝えます。



甲状腺検査に使用したエコー機



米の全量全袋検査機模型

5. 復興への挑戦



災害対応ロボットの「MISORA」

逆境を乗り越え、復興に挑戦する福島県の姿を紹介します。廃炉作業の進捗、福島イノベーション・コースト構想などの取り組みから、県民が困難に立ち向かい、復興へ向け力強くチャレンジする姿を発信します。